

日仏韓合同ワークショップ
映画専攻

1

3

アニメーション専攻第五期生修了制作展
アニメーション専攻



4

映画編集公開講座
映画専攻



映画専攻第八期生修了作品展
映画専攻

2

TOPICS OF
FILM AND
NEW MEDIA

2014.02-07

映旬

1

日仏韓合同ワークショップ

◎映画専攻

La Fémis (フランス国立映画学校)とKAFA (韓国国立映画学校)の学生を招いて、一月二十三日〜二月六日の日程で三校合同ワークショップを行った。短編映画の共同製作、国際共同製作映画に関するプレゼン、映画スタジオ見学などが行われた。

2

映画専攻第八期生修了作品展

◎映画専攻

八期生の修了作品展が三月一日〜二日(馬車道校舎)、三月八日〜十四日(渋谷ユーロスパー)の日程で開催された。上映のみならず、俳優の役所広司氏や舞台演出家の岡田利規氏など、様々なゲストを招いてのトークイベントも開催した。

3

アニメーション専攻 第五期生修了制作展

◎アニメーション専攻

三月七日から九日まで、本学横浜校地馬車道校舎において、第五期生修了制作展「GEIDAI ANIMATION 05 GO」を開催した。修了作品と一年次作品の全二十九本の上映と、絵本作家のたむらしげる氏とアニメーション監督の片淵須直氏を招いて、それぞれトークイベントの開催を行い、今年は過去最高の入場者数を記録した。また三月十五日から二十一日には、渋谷のユーロスパーにてレイトショー上映も行った。

4

映画編集公開講座

◎映画専攻

三月十五日、馬車道校舎大視聴覚室において、映画の編集に関する公開講座を実施した。映画『夢売るふたり』(監督・西川美和)を上映し、同作の編集者である宮島竜治氏による講義を行った。その後、宮島氏、西川氏、筒井武文教授(映画専攻 編集領域)による鼎談を行った。

5

Open Theater vol.3 『アメリカン・スリープオーバー』

◎映画専攻

三月十五日、二十二日、二十三日の日程で、オー



8

OPEN STUDIO APRIL 2014

メディア映像専攻



9

GEIDAI ANIMATION in 福井

アニメーション専攻



10

なんとかしナイト

メディア映像専攻



5

Open Theater vol.3 『アメリカン・スリープオーバー』

映画専攻



7

オムニバス作品『恋につきもの』封切

映画専攻



6

こどものためのシアター vol.1

アニメーション『木を植えた男』

アニメーション専攻

6

こどものためのシアター vol.1 アニメーション『木を植えた男』

◎アニメーション専攻

三月十九日、次世代のこどもたちへ、映像を見る、感じる、読み解く方法を教えるための映像鑑賞教育に取り組む企画として、第一回目はフレデリック・バック監督の長編アニメーション作品『木を植えた男』をセレクトし、横浜市立元街小学校の五年生九十七名、引率教員四名を招待して、本学アニメーション専攻の岡本美津子教授が解説とともに上映を行った。

7

オムニバス作品

『恋につきもの』封切

◎映画専攻

製作から配給、宣伝までを学生たちが行うオムニバス企画。八期生によるオムニバス作品『恋につきもの』監督・五十嵐耕平、一見正隆、梶井大地)は、四月十二日より新宿のシネマト新宿にて公開され、その後全国各地でもロードショーされた。

8

OPEN STUDIO APRIL 2014

◎メディア映像専攻

四月十二日、十三日、横浜校地新港校舎を会場に、メディア映像専攻の修士二年による展示会を開催。映像やメディアというものを自明なものとして扱うのではなく、常にメディアの意味や特性を捉え直すという立場で作品制作に取り組み、写真、シングルチャンネル映像、インスタレーション等、様々な作品形態で発表した。

9

GEIDAI ANIMATION in 福井

◎アニメーション専攻

四月二十六日、五月六日、東京藝術大学と福井県とのコラボレーション事業として、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻の上映を行った。第一期生から最新作である第五期生までの全修士作品を、福井県立美術館の講堂にてリピート上映を行った。

10

なんとかしナイト

◎メディア映像専攻

五月二日、横浜校地新港校舎を会場に、メディア映像専攻の修士一年による特別演習の成果発表として「映像『メディア』そして「見ること」そのものの探求を行う展示会を開催した。藤幡正樹教授による三週間の特別演習を通して考えた、今後のメディアの可能性、探求すべき問題などを、一夜限りの展示として発表した。



オスロ芸術アカデミー × デザイン科
国際交流ワークショップ

1

TOPICS OF
FINE ARTS

2014.02-07

美旬



保存林（奥の細道）植栽実験

2

1

オスロ芸術アカデミー × デザイン科 国際交流ワークショップ

四月二十五日、二十八日の二日間、ノルウェー国立オスロ芸術アカデミーデザイン科との学生交流ワークショップが、デザイン科にて実施された。

秋葉原をリサーチし、ノルウェー人向けの秋葉原観光宣伝ツールを作成する二日間にあたるワークショップ。

丸一日秋葉原を探索し、協働でグラフィック作品をつくることで、外国語でのコミュニケーション力の向上と、異文化の視点を探り入れた作品制作の姿勢を学んだ。

2

保存林（奥の細道）植栽実験

五月十二日から十四日、キャンパスグラウンドデザイン室とデザイン科環境・設計研究室にて、二月の豪雪で痛んだ保存林の再生を目的に



乾久美子+東京藝術大学 乾久美子研究室 展
小さな風景からの学び

4



デザイン科 学部3年生
公開講評会「FUTURE VISION」

3



5

“The Asakusa Resident Centre”
東京藝術大学建築科／オーストラリア・クィーンズランド大学共同ワークショップ

3

デザイン科 学部3年生

公開講評会「FUTURE VISION」

五月二十九日、中央棟第一講義室にて公開講評会を開催した。平日にもかかわらず、多くの来場者に恵まれた。

十チームの三年生が、国連のウェブサイトに掲げられている「Global Issues／グローバルイシューズ（地球規模の諸問題）」の中からテーマの一つを選択し、十歳の主人公が登場するストーリーを作り、問題提起もしくは問題解決を含む、プロジェクト、プロダクト、メディアコンテンツ等なんらかのアウトプットを提案して、十五分間のプレゼンテーションを行う課題である。

4

乾久美子+東京藝術大学 乾久美子研究室 展 小さな風景からの学び

四月十八日から六月二十一日まで、TOTTOギャラリーにおいて、建築科乾久美子研究室の学生らによって行われた、都市リサーチの成果が展示された。

5

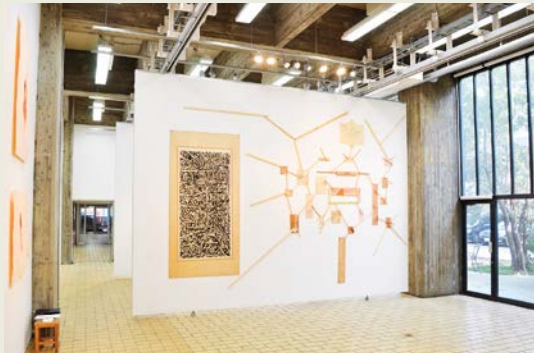
“The Asakusa Resident Centre” 東京藝術大学建築科 オーストラリア・クィーンズランド大学 共同ワークショップ

四月十三日から十九日、美術学部総合工房棟多目的ホール他において、オーストラリアのクィーンズランド大学建築学部トラベルアブロードデザインスタジオと建築科トム・ヘネガン研究室において、共同ワークショップが開催された。

このプロジェクトは、「浅草住民センター」の設計を行うもので、地域の住民のためのものであり、浅草を訪れる大多数の「訪問者」に圧倒されることなく、自分たちのローカルアイデンティティを再認識することのできる場所となる。地域住民が出会い、リラックスして話を行い、「地域住民のためのクラブ」のように使用されを考える。

プログラムとしては、レストラン、バー、会議室、図書館、リラックスして街中のイベントで外を見るための場所など。また銭湯と十五から二十部屋程度を備える旅館（各部屋四畳）の設計を行い、訪問者に浅草が持つ独特な文化や雰囲気を楽しんでもらえる空間を提供する。

これは約二百を超える市区町村で撮影した風景写真約一万八千枚を類型学的に分析し、「サービス」というキーワードによって選んだ約二千枚を一七六ユニット（写真群）に層別した。
なお、この展示に合わせて、書籍『小さな風景からの学び』（TOTTO出版）も発行された。



版画第二研究室展「ずれた」 6



安宅賞展 7

6

版画第二研究室展「ずれた」

六月十九日から六月二十七日まで、版画第二研究室展「ずれた」が絵画棟一階アトスペース1、2で開催された。今年で三回目となる本展だが、版画第二研究室教員四名と在籍する学生十二名が出品した。展示タイトルは、定着した版表現、版画展示の形式を再度自分たちに問うというコンセプトを持ったタイトルだが、「ずれた」が続くにつれ、ずれがなくなるという矛盾を作家達が感じながらも、ユニークな作品展示となった。

7

安宅賞展

六月二日から六月六日まで、絵画棟一階 Yuga Gallery と立体工房において、平成二十六年年度安宅賞奨学金受賞者による作品展「安宅賞展」が開催された。この作品展は、絵画科油画専攻三年に在籍する学生三名のグループ展示で、それぞれが個性的な作品を発表し、広く学内外にお披露目した展覧会となった。

8

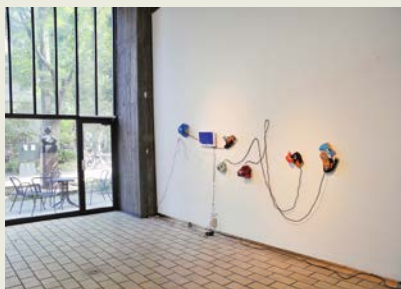
久米賞展

五月十二日から十六日まで、平成二十五年年度久米桂一郎奨学金受賞者四名による作品展「久米賞展」が、絵画棟一階アトスペース1において開催された。絵画科油画専攻二年に在籍する学生ならではの、若い力のあふれる野心



久米賞展

8



油画第三研究室展「Solar system」

9



日本画研究旅行「東北写生旅行」

10

的な作品が多く、展示は盛況を博した。

9

油画第三研究室展 「Solar system」

六月九日から十三日まで、油画第三(坂口寛敏)研究室の学生九名による展示「Solar system」が、絵画棟一階アートスペース1、2において開催された。展示タイトルである「Solar system」とは太陽の周りを公転する九つの惑星を研究室の学生に重ねている。メディアにとらわれない多様性に富んだ作品は、多くの鑑賞者を楽しませる展示となった。また十日には武蔵野美術大学からは枝開先生をお招きし、公開講評会が行われた。

10

日本画研究旅行「東北写生旅行」

毎年五月七日から十二日に行われる本研究旅行は、学部二年次の実技教育の一環として、日本画制作において重要な礎である写生を学ぶことを目的とするものである。青森県八甲田山西麓を発端に、十和田湖周辺までの道程を一週間の日程で巡る。その間合計約二十四キロの道程は徒歩にて移動し、雪深い山麓付近から緑豊かな溪流まで、東北のさまざまな自然と対峙し風景写生を行う。旅行後は研究成果としてスケッチを元に作品を制作。日本画制作における写生の重要性を認識するとともに、絵画表現のための視点や作画構成について実践的に学んだ。



TOPICS OF
MUSIC

2014.02-07

音旬

東京藝術大学音楽学部 4号館・第6ホール竣工記念式典・記念演奏会

1

上段：邦楽科「邦楽科 柿茸落公演」
中段左：声楽科「～愛しき歌～」
中段右：作曲科・楽理科・演奏藝術センター「作曲家 尹伊桑 室内楽曲の夕べ」より
ラウンドテーブル・トーク「尹伊桑が遺したもの」
下段左：指揮科「弦楽合奏とオーケストラの響き」
下段右：管打楽科「春の響宴～ Winds are singing,percussions are dancing!～」

1

東京藝術大学音楽学部 四号館・第六ホール 竣工記念式典・記念演奏会

四月二十二日、音楽学部四号館・第六ホール竣工記念式典が行われた。第六ホールは、昭和五十二年に四号館が新築されて以来、その中心的施設として数多く利用され、音楽学部の歴史を刻み続けてきた。しかし、時の経過とともに老朽化が進み、特に、ホール地階からの音漏れが気になるようになり、改修が悲願となっていた。

このたび、関係各位の多大なご支援のもと無事、改修工事が終了した。

新しい第六ホールは、木がふんだんに使われ、従来の音響の良さと遮音性を兼ね備えた素晴らしいホールに生まれ変わった。今後の活用が楽しみだ。

これを記念した演奏会が、四月二十六日から五月二日まで連続七日間にわたって行われ、一三六〇名の来場者に恵まれた。



音楽創造・研究センター開設

左：授業（実習） 中：センターの様子 右：スタッフ・ミーティング

2



④ ②
⑤ ③ ①

東京藝術大学 奏楽堂 モーニング・コンサート

3

① 5月15日 オルガン：清水奏花 ② 5月15日 ピアノ：西村翔太郎
③ 5月22日 ハープ：有馬律子 ④ 5月29日 サクソフォーン：上野耕平
⑤ 6月19日 作曲：逢坂裕
指揮：①、②、⑤高関健招聘教授、③山下一史非常勤講師、④湯浅卓雄教授
管弦楽：藝大フィルハーモニア

2

音楽創造・研究センター開設

文部科学省特別経費（プロジェクト分）を得て、今年四月に〈創造ラボ〉と〈研究ラボ〉から成る音楽創造・研究センターが開設した。日本独自のアピール力を備え、より広いオーディエンスを取り込むあらたな芸術創造・社会発信のあり方を確立し、広く社会に呈示することは、芸術創造とその播種がますますグローバル化するなか、必須の課題である。そのため、〈創造ラボ〉では本学が現在持つっている舞台上演の実践知に最新テクノロジーを援用して、あらたな芸術創造を行い、〈研究ラボ〉ではそうした活動を支えるために戦略的研究を実施する。センターでは「社会発信型芸術創造イニシアティブ」を開発・展開することにより、芸術創造の新しい実践モデルを示すことをめざす。

3

東京藝術大学 奏楽堂 モーニング・コンサート

昭和四十七年に音楽学部第一ホールで始まったモーニング・コンサートは、すでに四十二年目を迎え、現在は奏楽堂で年間十三回、音楽学部所属の各科から選抜された優秀な学生がソロist等として藝大フィルハーモニアと共演し、質の高い演奏が行われている。

平成二十五年四月からは有料化となり一時は来場者減少が心配されたが、年間を通した来場者数は八六七四名にものぼった。平成二十六年度についても、引き続き来場者を魅了する素晴らしい演奏が企画されている。